

人口ボーナス これからの時代を読むカギ

人口ボーナス。
最近よく聞く言葉である。

人口の動きを見ると、
経済のことがよくわかるようだ。

日本の高度成長、中国の最近の驚異的な成長も
人口ボーナスによるところが大きい。

人口ボーナスの状態であれば経済は成長し
世の中は活気がある。

逆の人口オーナスの状況では、経済は停滞する。
今、日本は人口オーナスの真っ只中にいる。

目次

1. 人口ボーナスとは？
2. 人口オーナスとは？
3. カギを握る出生率
4. 日本の歩んだ道
5. お隣り中国は？
6. 今後の課題

1. 人口ボーナスとは？

人口ボーナスという言葉をよく聞くようになった。
日本はこのボーナスがなくなってしまったようだ。
ということだろうか。

人口ボーナスとは？
一国の人口構成で、子供と老人が少なく、
15～64 歳の生産年齢人口が多い状態のことである。

多産多死社会から少産少子社会へ変わる過程でよく現れる。
この状況では、労働力が豊富であるため、高度の経済成長が可能となる。

そして、経済成長、女性の社会進出などがあり、
その後出生率は低下する傾向にある。

その結果、今度は人口オーナスへと向かう。

人口ボーナスのとき、その国は活気にあふれる。

2. 人口オーナスとは？

次に、その反対の人口オーナスとは？
そもそも、オーナス（onus）は重荷・負担の意味である。

高齢人口が急増する一方、生産年齢人口が減少し、
少子化で生産年齢人口の補充はできず、
財政、経済成長の重荷となった状態である。

3. カギを握る出生率

出生率がカギを握っている。
人口ボーナスにより、経済成長するのはよいといえる。
しかし、次にはその結果、出生率が低下していくことになる。

よりハードに働く女性が増えるためである。
すると、出生率は低下していくことになる。

しかし、最初の段階では、
養育が必要な子どもの数が少なくなるので、
人口ボーナスの状況が継続することとなる。

活気のある時代が続いているのである。
しかしながら、いずれ65歳以上が増えていくことになる。

高齢化が進み、
生産年齢人口は減少する。
さらに、高齢者は貯蓄を取り崩していくので、
社会全体の貯蓄がへり、
その結果、投資が減少することになる。

このようにして人口オーナスへと入っていく。

4. 日本の歩んだ道

この人口オーナスの観点から日本を振り返ると・・・
日本は、1950～60年代に人口は大きく増加した。

まさしく、人口ボーナス状態に入っていた。
この時代、日本は高度成長時代となった。

人口ボーナスを見事にうまく利用して、
経済を大きく発展させたといえる。

そして、ボーナスからオーナスへと転換する分岐点は、
1990年前後のバブル崩壊の時期と重なる。

その後、日本の経済は人口オーナスへと入り、
経済は低迷した。

そして、今の日本がある。
人口オーナスの状況は当分続きそうである。

5. お隣り中国は？

中国を見てみると、
1965年ごろから人口上昇局面に入っている。

この状況は2010年ごろまで続き、
2015年でピークアウトするといわれている。

人口ボーナスの恩恵を受けて経済成長できる時代は
終わろうとしている。

人口の観点から見て、中国も今までのようなパワーを
持ち得ないと考えられる。

6. 今後の課題

人口の側面から考えると、
日本、中国とも人口オーナスの時代となる。

生産年齢人口が少ない時代である。
経済的には、活気のない時代である。

人口以外のファクター・・・技術など・・・で
経済を盛り上げていく必要があるということである。

=====

ご意見等ありましたら、
下記へご連絡お願いいたします。

発行者 藤原一太郎
連絡先 hssk1101@yahoo.co.jp

こちらのブログも、ご参照ください
エクセレント ライフ
<http://hssk2101.seesaa.net/>

=====